



「秋田県民歌」と 「県民の歌」

〔秋田市観光クチコミ大使〕
北日本電線株式会社 取締役社長 三浦 政彦氏

私は、ちょうど昭和40年代に中学から大学まで秋田市にいましたが、その頃に歌っていたのは、朝あけ雲の～で始まる「県民の歌」でした。学校で習ったのも、種々の公式行事で歌われていたのも「県民の歌」でした。

秀麗無比なる～で始まる「秋田県民歌」に初めて出会ったのは、平成20年頃に入会した仙台秋田県人会でした。開会時に「県民歌」と言われて、朝あけ雲の～と違う曲で戸惑いましたが、素晴らしい曲で歌えるようにすぐに楽譜を探しました。

昭和5年作曲の「県民歌」は戦後はしばらく歌われず、昭和43年作曲の組曲「大いなる秋田」の第3楽章に挿入されてから復活したと聞いています。私は学生時代音楽サークルに入っていましたが、全然知りませんでした。仙台在住の私と同世代の秋田出身の人たちも知らなかったと言っています。

私自身は、大曲花火大会フィナーレで流れている、津雲優さんの「いざないの街」に挿入されている「県民歌」が一番好きです。津雲さんの生演奏は、前会頭の渡邊さんがご最真にしていたお店の30周年記念パーティーでも聴きましたが、大曲の夜空に輝く花火を見ながら聴いていると感動で涙が流れるほどです。成田為三の曲も素晴らしいのですが、倉田政嗣・高野辰之の詞がまさに秋田をよく表現しています。第一次大戦後の昭和恐慌と冷害が続いた時代背景の中で制定された当時、県民はどのような気持ちで歌い聴いたのか、色々な思いがあったと想像されます。

しかし、「県民歌」が復活して「県民の歌」が歌われなくなった頃から人口が減少し、駅前の金座街も、

広小路も賑わいがなくなり、活力が薄れていったように見えます。「県民歌」の1・2番は自然と資源を表しています。素晴らしい詞ですが、ノスタルジックではあるものの未来に向かう人間の前向きな活力がまだ表現されていません。4番の～燦たる理想に燃え起つ我等、至純の郷土と拓かん秋田～も歌って未来志向の心意気を示したらどうでしょう。できれば、力強くリズムカルなメロディーの「県民の歌」も～みんなで歌おうよ～と一緒に歌ったらいいのではないのでしょうか。

仙台で、今年9月23日に「大いなる秋田 第2回仙台公演」がありました。秋田出身の殆どが大学生の50名余のブラスバンドで素晴らしい演奏でした。感心すると同時に、40余年前に秋田を出て帰らない身で申し訳ないのですが、あの若者たちがたくさん戻れば秋田の未来は明るいのかなあ。と、思っていました。

私は、仙台秋田県人会の役員もしており、故郷との繋がりを持ちながら、「県民歌」と「県民の歌」を歌い今後も秋田の応援団でいたいと思っています。

■略歴

出生地	秋田県 秋田高校、秋田大学鉱山学部卒
昭和50年4月	東北電力(株)入社
平成21年6月	東北電力(株) 執行役員秋田支店長
平成24年6月	東北電力(株) 常務取締役電力流通本部長
平成27年6月	北日本電線(株)取締役社長